

令和3年度 石川県地域日本語教室大会 報告

(公財)石川県国際交流協会では、令和3年度も文化庁の「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」に採択され、県内各地で「サポーター養成講座」「外国人コミュニティリーダー研修」「課題別会議」を開催、各地の教室、自治体を訪問してきました。

そのまとめとして、12月10日(金)に金沢港クルーズターミナルの研修室を会場に標記大会を開催し、多くの方にご参加、ご報告、ご協力をいただきました。

日時:	令和3年12月10日(金) 午後1時~3時		
会場:	金沢港クルーズターミナル		
参加者:	42名(うち自治体担当者等10自治体15名、日本語サポーター等11教室・団体26名、大学1名)		
内容:	第1部「体制づくり推進事業」報告		
	●「外国人コミュニティリーダー研修」	能美市国際交流協会	清水和貴子さん
	●「子ども支援」	津幡町教育員会	藏本あゆみさん
	●「ICT研修」	白山市国際交流室	長島史晃さん
	●「サポーター養成講座」	Switchうちなだ	高愛子さん
	第2部「座談会」		
	●「日本人住民の巻き込み方」	コーディネーター:大星三千代さん	宝達志水町:森田泰昭さん
	●「外国人が活躍する町づくり」	コーディネーター:村上洋子さん	能美市:吉高ミレーナさん
	●「日本語教育の多様化」	コーディネーター:古林秀美さん	金沢市:阿部愛沙大さん

コメント: 今大会では、県内各地で地域日本語教育に関連した事業に取り組んだ皆様のご報告を元に、参加者同士が質疑応答、意見交換を行う機会を多く作りました。結果、2時間という短い時間でしたが、アンケート結果をご覧いただくとわかるように、発見、交流、新しいつながりが多く生まれました。

1つの市町だけでは解決できない問題も、複数の市町や教室が広域で協力することで、力を発揮できたり、課題の解決につながることが今年度の発見ではないかと思います。

第2部「座談会」各テーブル内容の要旨:

テーブル1「日本人住民の巻き込み方」

話題提供者:大星三千代さん(七尾市国際交流協会)、森田泰昭さん(宝達志水町、ふれあいにはんごひろば)

1. 羽咋市・宝達志水町「ふれあいにはんごひろば」の活動

2市町が協力して、10年前に養成講座を実施し、サポーター8名で開始。サポーター減り、市町職員3名で現在運営。今年度、2市町に志賀町を加え、広域での養成講座実施。30名受講。とてもよかった8割、教室見学希望5割。

2. 地域での日本語教室の役割と課題

- ・ 防災やコロナなど何でも相談できる場所であり、住民同士の交流の場でもある。今後、外国人住民サポートのための、教室の役割は大きくなる。
- ・ 日本語サポーター自身も教室への参加目的がそれぞれ違う。外国人住民の生活相談窓口の役割を今後どうしていくか検討必要。

3. 会場参加者からの意見

- ・ 能美市では、教室が相談窓口になり、そこから行政へとつないだ。教室は外国人住民と信頼関係ができやすく、出産、育児、仕事など幅広い相談が持ち込まれる。
- ・ 小松市の相談窓口は、行政、国際交流協会、商工会議所の3か所。生活相談は協会、雇用等の相談は商工会議所に。協会ではブラジル人、ベトナム人の相談員待機。相談者養成のための講座も実施。
- ・ 外国人支援に興味を持つ人も、ちょっとしたお手伝いをしたい人と、さらにステップアップしたい人に分かれる。活動継続のため、活動場所を作り、何としてもつなぎとめる。

テーブル2「外国人が活躍するまちづくり」

話題提供者：村上洋子さん（小松市国際交流協会）、吉高ミレーナさん（能美市国際交流協会）

1. リーダー研修に関連して

- ・ 研修が「防災」や「行政書士」など多岐にわたり、学ぶことが多かった。
- ・ 「リーダー」を求めることは負担になった。参加者集めに苦労があった。
- ・ 「医療」「警察」などのテーマもあるとよい。

2. 会場参加者からの意見

- ・ 外国人住民にとって必要な支援だ。
- ・ 「リーダー」というより、問題を素早く解決するために「橋渡し」「協力」する人。
- ・ 市町によって、外国人住民支援の普及度合が違う。他市町を参考にしながら進めたい。

3. コーディネーターから

- ・ 外国人住民は若く、パワーのある人が多い。何も分からないと決めつけてはいけない。
- ・ 地域にいる「この人がまとめ役!」という外国人に他の外国人住民の支援をしてもらうのがよい。
- ・ 「日本語が上手になった外国人が別の外国人に教える」等、外国人住民同士が助け合うケースもある。

テーブル3「日本語教育の多様化」

話題提供者：古林秀美さん（石川県日本語講師会）、阿部愛沙大さん（金沢国際交流財団 KIEF）

1. KIEF による、複数機関が連携した「外国につながる子ども」支援の取組例

- ・ 日本語を学ぶ外国人住民も、留学生、技能実習生、子どもなど多様化している。地域の生活者としての日本人との接点にも目を向ける必要がある。
- ・ 金沢国際交流財団では、外国につながる子ども、特に「ダイレクト受験生（母国で中学卒業し日本で高校受験）」のサポート体制づくりに取り組んでいる。
- ・ 複数の機関・団体が役割分担。（①IFIE→協力体制づくり ②金沢子どもスタディサポート→教科学習支援 ③KIEF→サポーター養成講座の主催、サポーターの確保 ④石川県日本語講師会→子どもへの初期日本語教育、サポーターの見学受入、指導）
- ・ 支援進めると、親や学校等とも連携。本人の学習意欲上がった。子どもは親の都合で来日しているので、地域に溶け込めるよう工夫が必要。

2. 会場参加者からの意見：

- ・ 個人への支援から、学校、行政への働きかけへ支援活動を広げることも大切。
- ・ 日本の学校制度、受験システムを本人や親にきちんと説明・理解してもらうのが難しい。
- ・ ベストな情報提供の仕方は、子どもと親の出身国・文化によっても違う。誰から何をどうやって伝えるか検討重要。行政も関わるのが大切。